

6 いじめ問題対応の4つのポイント

ポイント1

学校が一丸となって取り組む ～教員の指導力の向上と組織的対応～

いじめ問題に適切に対応できるようにするため、個々の教員のいじめ問題への鋭敏な感覚と的確な指導力に基づく個による対応のみならず、学校全体による組織的な対応を進める。

- 特定の教員がいじめ問題を抱え込むことなく、機動的かつ組織的な対応ができるようにするため、学校いじめ対策委員会を核とし、各々の教職員の役割と責任を明確化する。

ポイント2

被害の子供を守る ～子供からの声を確実に受け止め子供を守り通す～

被害の子供からの情報やいじめの兆候を確実に受け止め、被害の子供が安心して学校生活を送ることができるようにするため、被害の子供を組織的に守り通す取り組みを徹底する。

- 被害の子供の声やサインを早期かつ確実に受け止めるため、学級担任として子供への積極的な働きかけを行うとともに、いじめ相談ポストやスクールカウンセラーによる面接などの取り組みを実施する。
- 被害の子供の安全確保のために、状況をきめ細かく把握し、重大事態発生の場合等は、登下校時の付き添いなどを実施する。

ポイント3

周囲の子供に働きかける ～見て見ぬふりをせず、声を上げられる学校づくり～

周囲の子供が知っていながらも「言ったら自分がいじめられる」などの不安を抱えていることを直視し、勇気をもって教員等に伝えた子供を守り通すとともに、周囲の子供の発信を促すための子供による主体的な取り組みを支援する。

- 勇気をもって伝えた子供を守り通すことを宣言し、登下校時の付き添いなど、いじめから守るための取り組みを、保護者や地域と連携しながら、継続的かつ徹底して行い、周囲の子供の安全を確保する。
- 周囲の子供が「いじめを見て見ぬふりしない」よう道徳や特別活動等で指導するとともに、言葉の暴力撲滅キャンペーン等いじめの撲滅に向けた代表委員会等による主体的な取り組みを支援する。

ポイント4

社会総がかりで取り組む ～保護者・地域・関係機関との連携～

いじめが複雑化・多様化する中、学校がいじめ問題を迅速かつ的確に解決できるようにするため、保護者や地域、関係機関との連携を密にして取り組む。

- 保護者会等を活用した情報の共有や地域人材との連携による子供の見守りを実施する。
- いじめの対応状況に応じて、警察や医療機関、福祉機関等と連携した対応を取る。